

No. 1100

争点なき激戦

— 愛知県知事戦 —

愛知県内は、連日激しい選挙戦が展開された。6期24年続いた桑原県政のあとを継いで行なわれた県知事選挙。3人が立候補したものの、事実上、自民党民社党すいせんの仲谷候補と社会党共産党すいせん公明党支持のナルセ候補の対決となった。ピラがばらまかれ、駅頭はマイク合戦。あちこちで運動員のいざこざもでる仕末。民社党委員長長春日一幸の地元とあって県内をたんねんに歩き廻る。お互い、にたりよったりの、公約をかかげ、保守は政策の革新を。革新は、政治の革新を訴える。

共産党の不破書記長もナルセ候補の応援にかけつけ、“財界のヒモツキは決して県民の生活を守ってはくれない、桑原県政、商工会議所、杉戸市長の3角同盟の一角をくずしたのだからこんどこそ桑原県政をうちたおし革新県政をうちたてよう”と訴えれば、

江崎元自治大臣は仲谷候補の個人演説会で“杉戸市長が破れた時は、私達がゆだんをしてたからです。かしこい県民の皆様はわかっているはずです。行政のベテラン、仲谷候補にまかせれば良いことを。こんどは、革新側を破り、バンジ休すといわせましょう”

今後の統一地方選挙の行方をうらなう選挙として注目をあびた愛知県知事選挙は、争点なき愛知保守と革新の激しい戦いの中で県知事とは何か県民にとっての県政とは何かが問われながらも埋没していった。

不況の中で今なおあえぐ一宮地区の零細織屋さん。去年10月、取材に訪れた時と変わらず織機は動いていない。服部さんはソロバンができることから今、土建屋の事務のアルバイトにでてるという。“サラリーマンに退職金があるように仕事が無くなった時、私達に援助が欲しいと思う。特に繊維は組織がなにもないけど、革新ならばどちらでも良い。保守でも革新はできると思う。ほんとうにやってくれる人なら”

6期24年の桑原県政の中で、工場は林立し、シバタ公害ゼンソクと呼ばれる患者が続出した南区。患者は減るところか、増えているという。一昨年訪れた南診療所の医師は、“総量規制を一日も早く実行して欲しかった。更に工場うちや増設もやめて欲しかった。特にここで認定患者が死亡した時期にある工場の幾つかの拡大を許してる。これらなんかやめられたんじゃないか。更に県の援助は少ない。吸入器の補助もして欲しいし急な発作がおきた時名古屋の市立病院はあっても県立病院はないんですからね”

新幹線がその下に住む人々をむしばんで10年。裁判に訴えた昨年の3月に訪れた時より竹内さんは病気が悪くなっている。“体はメチャクチャだわ、ノイローゼというもんかね。私らじゃまもんだで早よ死ねばいいという事だわ。選挙の演説きいてもやらしてもらえん事はわかるとるで。期待はしていない。選挙にはいくけどよ”

様々な苦悩を抱いて生活を強いられる県民の声は、どこまで届くのか。選挙戦最後の日、仲谷候補の応援にかけつけ、“物価問題ももうしばらく待って欲しい”と頼み、“私達にまかせて下さい仲谷候補をよろしく”と訴えた。

こうして選挙戦は終わった。2月11日午後9時50分、予想をはるかに上廻って開票率41%で自民、民社連合の愛知保守陣営がたてた仲谷候補が当選確実となった。選挙事務所は湧きに湧いた。結果は40万票の大差であった。この4月の統一地方選挙の思惑ばかりが語られた争点なき激戦、愛知県知事選挙。しかし今こそ地方自治の復権が語られねばならない。